審査の結果の要旨

氏名　大島　隆太郎

日本の学校制度は、その成立以降、どのような経緯を経て現在の在り方が形成されてきたのだろうか。また、その特徴はどのように理解することができるだろうか。本論文は主に教科書制度の歴史的な経緯を手かがりとしながら、従来の研究とは異なる分析視角でこうした問いに迫ろうとした研究である。

本研究は、4 部 15 章で構成されている。第 I 部「論点整理と研究の設計」では、分析に必要な論点の整理と理論的枠組みの検討を行っている。第 1 章では、本研究の理論的位置付けに関して議論を行っている。第 2 章では、日本における現在の教科書制度の特徴と論点を検討したうえで、本研究の課題を提示している。第 3 章では、本論文の分析枠組みとして用いる比較制度分析についてその展開を述べている。

第 II 部「教科書制度の理論的検討」では、ゲーム理論や事例分析を用いて、教科書制度の安定化に関わる条件について理論的な検討を行っている。第 4 章では、教科書の所有と教科書費用に関する制度の構造的な差異を考察している。第 5 章では、採択規模の観点から教科書採択制の安定性について検討を加えている。第 6 章では、教科書制度に重大な影響を与える教育課程制度について現行制度の構造的特徴と教科書制度の安定化への影響を論じている。第 7 章では、第 4 章から第 6 章の議論に基づき、教科書制度全体の安定化に関わる条件および教科書制度内の制度間関係について議論を行っている。

第 III 部「日本における教科書制度の展開過程」では、制度選択の歴史的、政治的経緯について、明治初期の近代学校制度の草創期から、現行の教科書制度の構造が確立する 1960 年代までの経緯を検討している。第 8 章では日本における教科書制度の根底にある所有制がいかにして選択され、維持されてきたのかを通時的に説明している。続く第 9 章では明治期における義務教育（小学校）教科書の国定化に至る過程を、第 10 章では、戦前においても教科書官給の制度化が失敗した要因を検討している。第 11 章では 1950 年代の義務教育教科書の広域採択制の採用をめぐる政策過程に焦点を当て、第 12 章では義務教育教科書の無償化に至る経緯と、現在の高校段階の教科書制度の成立過程について取り上げている。

第 IV 部「日本型学校制度の構造と特質」では、第Ⅲ部までの議論に教員人事制度に関する理論的考察を加えて、日本型学校制度に関する考察を行っている。第 13 章では、現在教科書制度が直面している課題について検討を加えている。第 14 章では教員人事制度に関する理論的問題と歴史的展開を論じたうえで、教員人事制度と教科書・教育課程制度との制度的補完性について言及している。最後の第 15 章では、本研究の結論と示唆、残された課題を述べて本論文の結びとしている。

本論文では、これまで教育学では注目されていなかった比較制度分析を用いて教科書制度を検討することを通じて、日本の学校制度の特質を分析した点で独創的である。本論文は、相対的に調達が容易であった「モノ」に依拠して広域的な教育課程管理を行いつつ長期的な人材確保を行い、教員の専門性の蓄積を図ってきたこと、そして、こうしたしくみの存在が、投入する資源が少ない中でも急速に近代学校制度を全国的に普及させ、戦後期を通じて安定的な公教育を提供することを可能にした一因であることを明らかにした。こうした知見は学術的にも独自性の高いものである。よって、本論文は博士（教育学）の学位を授与するにふさわしい水準にあるものと判断された。